

第1回奈良県立病院地方独立行政法人評価委員会 経営改善検討チーム会議 議事要旨

- 1 日時 平成28年11月1日(火)
- 2 場所 奈良県庁5階第1会議室
- 3 出席者 【委員】浮舟委員、小山委員、竹田委員、竹中委員、富田委員、豊岡委員、松田委員
【病院機構】榊理事長 他
【事務局】浪越副知事 他

4 会議要旨 議事

(1) 座長の選出

福岡市立病院機構理事長の竹中委員に座長を務めて頂いた。

(2) 県立病院機構の経営改善の方策について意見交換

○病院機構の経営改善について

(人件費)

- ・赤字の原因は人件費。1千万円以上超勤の医師がいることは信じられない。健康管理上も問題。
- ・独法化の際、給与体系を見直すのが通常。見直しの予定はあるのか。

(材料費)

- ・医大と情報交換し、共同購入もしてはどうか。少なくとも機構の3病院で共同購入すること。

(体制)

- ・県、機構、現場が一緒にならないと良くはならない。
- ・事務の専門職がない。プロの人材が必要。
- ・経営体制を変えないと良くならない。経営改善をやるんだという決意表明が必要。

(新総合医療センター)

- ・新病院はもっと莫大な赤字になる。現状であれば何とかなるが、大変なのは新病院。

○新公立病院改革プランについて(地域医療構想を踏まえた病院の果たすべき役割)

- ・どこも急性期が過剰。今後は過当競争になっていく。
- ・公的な病院として役割は何かを明確にすることが必要。各病院の目標が見えない。
- ・地域でどれくらいの医療需要、医療供給があるのか、患者経路はどうか。そういった数値を見ないと、急性期で良いかどうかの判断が難しい。
- ・総合と西和は、それぞれの地域でナンバー2。総合は市立奈良と、西和は近大病院と、機能もほとんど同じで競合している。
- ・総合は、がんセンターのイメージ。西和は、急性期のイメージで、がんは近大。
- ・県立と市立が同じ地域にあるところで、うまくいっているところはあまりない。
- ・県立と市立で、急性期の役割分担が必要。

